

2023 年度 事 業 報 告 書

(期間：2023 年 4 月 1 日から 2024 年 3 月 31 日まで)

法人の名称 特定非営利活動法人 ダイヤモンド・フォー・ピース

1 事業の成果

2023 年度は、①啓発事業においては、国内外の対象者に向けて対面・オンラインによる啓発活動を実施した。また、メディアに取り上げられる機会が増加した。

②自立支援事業においては、2022 年度より継続して実施している責任あるダイヤモンド採掘のワークショップを合計2回実施し、組合員がダイヤモンド採掘を実施している鉱山において実践的な研修を実施した。12 月のワークショップでは、ウィズア村のみならずキャンプアルファ村においても探査技術に関する研修を実施し、環境に優しい採掘に関する指導が拡大している。アグロフォレストリー活動や養蜂活動、魚の養殖活動についても収入源の多様化と環境保護を目的に継続して技術支援を実施しており、魚の養殖に関してははじめて魚を収穫することができた。地域の衛生活動に関しては、ウィズア村の小中学校のトイレ1棟の修繕を実施したことで、学校周辺における屋外排泄の減少に貢献した。

④その他の事業は、2023 年度は実施しなかった。

主な事業内容は以下のとおりである。

2 事業内容

(1) 特定非営利活動に係る事業

① 啓発事業

ア ウェブサイト、SNS、機関紙、メールマガジンによる啓発活動

・内容

Facebook、Instagram、X、Linkedin 等の SNS を用いて、活動の進捗報告やイベント開催等を定期的に周知した。

また、機関紙「The Journey」第 7 号（2023 年 4 月発行）を発行し、リベリアの活動対象村における責任あるダイヤモンド採掘の基礎ワークショップ、採掘組合の実施するアグロフォレストリー活動、養蜂活動、養殖活動、公共トイレ建設、ゴミ拾い活動、リベリアのダイヤモンド採掘にまつわる迷信について紹介した。また、運営メンバー、法人会員や寄付者、ボランティアを同機関誌にて紹介した。同機関紙は英語と日本語の併記で、日本・海外における広報啓発ツールとなっている。なお、機関紙は紙面の配布に加え当法人ウェブサイトからもダウンロードすることができる。

- ・日時 2023 年 4 月～2024 年 3 月
- ・場所 当法人事務所他
- ・従事者人員 のべ 15 人
- ・受益対象者 当法人のウェブサイト、Facebook ページ、Instagram アカウント、X、LinkedIn ページにアクセスする者およびメールマガジン購読者のべ 148,494 人
- ・支出額 143,925 円

オンラインの媒体	投稿数/配信数	リーチ数（訪問数）	備考・詳細等
日本語ウェブサイト	17	80,863	81,653 (PV)
英語ウェブサイト	10	14,645	17,688(PV)
Facebook ページ	95	24,773	--
Instagram	92	10,525	--
X	29	813	-
Linkedin	37	10,286	--

日本語メールマガジン	7	4,140	のべ購読者数
英語メールマガジン	3	891	のべ購読者数
機関紙 「The Journey」	1	1,558	856(紙面配布数) 702(ダウンロード数)*
合計	291	148,494	--

*2023/5/21～本報告書執筆時点までのダウンロード数

イ 講演・講義活動

・内容

2023 年度は、オンラインで講義を実施した。講演の内容は、対象者及び主催者の意向により、ダイヤモンドやサプライチェーン上の課題を取り上げた。

- ・日時 2023 年 5 月
- ・場所 オンライン
- ・従事者人員 のべ 2 名
- ・受益対象者 大学教員、大学生 計 4 名
- ・支出額 0 円

◎講演・講義活動実績

No.	開催日	講演主催者	内容	参加人数
1	5 月 19 日	神田外語学院	「国際協力論」における DFP 活動紹介	4 名
				4 名

ウ. イベントの開催

・内容

イと同様に、日本国内や英語圏対象者向けのイベントを対面・オンラインにて開催し、ダイヤモンドサプライチェーンにおける問題や当会の活動を啓発した。

- ・日時 2023 年 5 月～2024 年 1 月
- ・場所 下表参照
- ・従業者人員 4 人
- ・受益対象者 イベント出席者 主に宝飾業界関係者、サステナビリティに関心のある社会人・学生等 199 人
- ・支出額 252,950 円

◎当法人主催イベント

No	開催日	イベント名	内容	場所	参加人数	録画視聴数*
1	5 月 11 日	宝石鑑定士の衝撃 「ダイヤモンドの中身は水！？」～ リベリアの採掘村に伝わる 10 の迷信～	採掘村に伝わる迷信から紐解く、自立支援の重要性	オンライン	28 名	63

2	6月29日	IPIS/KPCSC 共催 「Empowering African Diamond Mining Communities」	アフリカの採掘 コミュニティを エンパワーする 方法	対面	15名	NA
3	9月26日	欧米ジュエラーの先 進事例から学ぶ宝飾 業界の責任ある原材 料調達最前線	DFP 活動概要、 スリランカにお ける色石の責任 ある調達事例	オンライン	33名	42
4	1月29日	米国アリゾナ州立 大学共催トークイ ベント	手掘りダイヤモンド 採掘の現 状、課題、今後 の方向性	対面	18名	NA
小計					94名	105
合計					199名	

*録画視聴数は本報告書執筆時点での数

●外部イベントへの出展
出展なし

エ 他媒体への掲載

・内容

2023年度は、他媒体から DFP の活動内容を掲載したいとの依頼が増加し、情報提供するなどして協力した。

・日時

2023年4月～2024年3月

・場所

下表参照

・従業者人員

3人

・受益対象者

世界で手掘りダイヤモンド採掘に従事する労働者およそ 1,300 万人 及び
掲載された記事の読者推定数 104 万人

・支出額

0円

No	掲載日	発行社名	媒体名	内容	掲載場所	推定リーチ数*
1	4月6日	共同通信	47news.jp	採掘村における養 蜂活動の導入等、 DFP について	ウェブサイト	10,764
2	5月1日	GIA（米国宝 石学協会）	GEMS & GEMOLO GY	リベリアで採掘さ れるルビーとその 価値について	雑誌 ウェブサイト	37,714
3	10月27日	New Jewelry LLC.	Jewelry Journal	ダイヤモンドの調 達における人道・ 環境配慮の重要性 （前編）	ウェブサイト	1,800

4	10月30日	New Jewelry LLC.	Jewelry Journal	ダイヤモンドの調達における人道・環境配慮の重要性（後編）	ウェブサイト	1,800
5	12月15日	特定非営利活動法人 開発メディア	ganas	採掘村に伝わる迷信の影響と、DFPの活動	ウェブサイト Facebook X	2,640
6	12月25日	The New York Times Company	The New York Times	法人会員 MIO HARUTAKA 氏と DFP の紹介	ウェブサイト	474,870
7	2月1日	GIA（米国宝石学協会）	GEMS & GEMOLOGY	採掘者がダイヤモンドに関する正確な知識をつけることの重要性について	雑誌 ウェブサイト	37,714
8	2月22日	米国非営利団体 エシカルメタルスミス	The Source	採掘村に伝わる迷信が採掘者に与える影響と、それに対する DFP の挑戦	ウェブサイト Instagram Facebook	113
9	3月7日	The New York Times Company	The New York Times	世界女性の日を記念し、DFP を率いる女性リーダーとしての代表村上の紹介	紙面（インターナショナル版） ウェブサイト	474,870
合計						1,042,285

*推定リーチ数は、当会独自の算出方法による。

② 自立支援事業

ア ダイヤモンド採掘の現地調査及び責任あるダイヤモンド採掘の基礎ワークショップの開催

・内容

2022 年度に引き続きリベリア共和国バボル州ウィズア村において、米国人の採掘専門家による責任あるダイヤモンド採掘基礎ワークショップを開催した。5 月に実施したワークショップでは 5 日間でのべ 169 名（採掘組合員、採掘労働者グループ、女性グループ、近隣地域の採掘者/採掘労働者等）が参加した。ワークショップでは、ダイヤモンドの探査～試掘～採掘～選鉱～閉山という採掘のライフサイクルの基礎を中心に講義と復習を行い、ダイヤモンドを効率的に回収するための選鉱機材プロトタイプの実演と試運転、地図の読み方と作成方法、ダイヤモンドが埋まっている可能性が高い場所を地形や地層から分析する探査方法について実践を交えながら研修を行った。参加者との会話から、金を採掘している住民が選鉱時に水銀を使用していることが判明したため、12 月に住民集会を開き、環境・人体に対する水銀の危険性に関する啓発活動も実施した。

12 月に実施したウィズア村でのワークショップでは 3 日間でのべ 61 名が参加した。より実践的な内容とするため、ウィズア村からバイクで 1.5 時間ほど離れたダイヤモンド鉱山において通常研修での参加率が低い採掘労働者に対しても直接指導した。12 月のワークショップでは、同じバボル州にある採掘村であるキャンプアルファ村において探査技術に関する一日研修を実施した。このワークショップには 21 名が参加した。学習到達度を測定するため、ウィズア村とキャンプアルファ村それぞれのワークショップにおいて研修の最初と最後に小テストを実施した。また、出席率

及び小テスト点数の条件を満たした参加者に対し修了書を授与した。ウィズア村のワークショップで修了証を授与したのは5月33名、12月16名、キャンプアルファ村では21名である。実地で教えた技術は、昨年度作成した採掘者のためのハンドブックに追加し、採掘者がいつでも復習できるようにした。

- ・日時 2023年5月、12月
- ・場所 リベリア共和国バボル州ウィズア村（5月・12月）
キャンプアルファ村（12月）
- ・従事人数 7人
- ・受益対象者 ウィズア採掘農業組合員、採掘労働者グループ、女性グループ
近隣地域の採掘者/採掘労働者等 のべ178名
- ・支出額 4,260,000円



ダイヤモンドを効率的に回収するための選鉱機材プロトタイプを、現地の状況にあわせて最適化するため実験している様子



キャンプアルファ村において、ダイヤモンドが埋まっている可能性が高い場所を特定するための探査手法を教えている様子

イ アグロフォレストリー研修の実施

・内容

ウィズア村では探査技術の無い現地住民達は手当たり次第に森林を開拓し手掘りダイヤモンド鉱山としている。ダイヤモンドを掘りつくした後の鉱山は適切な閉山がされないまま放棄され、農地としての再利用が困難な他、穴に水がたまりマラリアを媒介する蚊の幼虫の発生源となっている。当会は2022年9月より森林破壊を食い止める閉山活動を推進するとともに、採掘者が閉山活動から経済的利益を得られるようにするため、リベリア人アグロフォレストリー専門家と協力しアグロフォレストリー活動（木を植え森を管理しながら、その土地で果樹や野菜を栽培する手法）を実施している。アグロフォレストリー用に特定した1つの放棄鉱山1エーカー（約1224坪）の埋め立てを実施しており、2024年3月末時点で約50%程度の土地の埋め立てが完了した。昨年度から育成しているオレンジの苗木の本数は2月末時点で189本である。2023年度は合計6回の研修を実施し、のべ60名の組合員が参加した。乾季に入り組合員の多くが放棄鉱山の埋め立て作業に従事することになったため、埋め立て作業のモニタリングと家畜の侵入から圃場を守るためのフェンスの建設、土から十分な養分を得ることができるようにするための新しい苗床の作成に注力した。また、専門家は組合員の畑を訪問し、これまで教えた技術の実施状況をモニタリングし、個別指導を実施した。

- ・日時 2023年4月～2024年3月
- ・場所 リベリア共和国バボル州ウィズア村
- ・従事者人員 6名
- ・受益対象者 ウィズア採掘農業組合員約50名及びその下部組織員約70名
- ・支出額 2,900,000円



作成した新しい苗床の様子



フェンス建設の様子

ウ 養蜂普及員に対する養蜂技術研修・フォローアップ活動の実施

ダイヤモンド採掘者の安定した収入源を確保するために 2020 年より養蜂活動を支援している。ウィズア採掘農業組合はロファ・マノ国立公園近くの森林に巣箱を設置し、2024 年 2 月時点で約 30 名がダイヤモンド採掘の傍ら、養蜂に取り組んでいる。養蜂活動の普及を促進し他の養蜂家への技術指導を行うため、養蜂活動に熱心な組合員 9 名を養蜂普及員に認定し育成を行っている。養蜂普及員の知識や技術向上のため、2024 年 3 月に養蜂専門家による技術研修（7 名参加）とフォローアップ活動を実施した。具体的には、ミツバチの巣を分けて他の巣箱に移動させる研修とアリ対策に関する指導を行った。組合員は養蜂活動を通じて森林保護への理解が深まっており、各養蜂場に看板を設置し同地域の木の伐採禁止を地域住民に求めている。ハチミツが収穫できるようになったことで、自主的に巣箱を設置する組合員が増加しており、収入が向上している。2024 年 2 月時点で作成された巣箱は 163 箱で、ミツバチが住みついた巣箱は 20 箱である。アリ被害や手入れ不足等でミツバチが住み着いた巣箱の数は去年と比べて減少してはいるが、引き続き養蜂普及員へのフォローアップを中心に技術支援を行っていく予定である。

- ・日時 2023 年 4 月～2024 年 3 月
- ・場所 リベリア共和国バボル州ウィズア村
- ・従事者人員 6 名
- ・受益対象者 ウィズア採掘農業組合員約 50 名及びその下部組織員約 70 名
- ・支出額 2,300,000 円



養蜂研修の様子



養蜂場であることを示す看板の設置

エ 養殖池で育てた魚の収穫

- ・内容

当会では 2021 年 7 月よりウィズア村のダイヤモンド採掘者の収入安定と多様化のため、ウィズア採掘農業組合が実施する魚の養殖池の活動を支援している。これまでに 3 つの養殖池が完成し、

2022 年 12 月と 2023 年 5 月の 2 回に分けて合計 435 匹の稚魚を放流した。2024 年 3 月に養殖の専門家による収穫研修を実施し、82 匹(約 16kg)の魚を収穫した。収穫後は、池を清掃し養分を与えた養殖池に育成中の約 5,000 匹の稚魚を放流し養殖活動を継続している。持続可能性の観点から現地で入手できる材料（キャッサバ粉、魚粉、とうもろこし粉、ピーナツペースト等）を使った餌の作り方に関する研修も実施した。収穫研修前に池から魚が盗まれる事件があったため、盗難対策に関する協議も支援した。引き続き、組合員が自分たちで養殖池を管理し魚を収穫することができるように支援を行う予定である。

- ・日時 2023 年 4 月～2024 年 3 月
- ・場所 リベリア共和国バポル州ウィズア村
- ・従事者人員 6 名
- ・受益対象者 ウィズア採掘農業組合員約 50 名及びその下部組織員約 70 名
- ・支出額 975,000 円



魚の収穫研修の様子



魚の餌作りの様子

オ 公共トイレ第 1 号棟・第 2 号棟のモニタリング

・内容

ウィズア村の住民の約 8 割は自宅にトイレがなく森や川で排泄しており、現地の環境破壊は深刻である。トイレの建設は地域が解決したい第一の優先課題として挙げていたため、当会は 2021 年度にスリップウェイ集落において最初の公共トイレの建設を支援し、21 世帯 (21 世帯 x7 名(1 世帯平均)=147 名)の住民が使用している。2022 年度はマンディンゴ集落からの要望を受け、公共トイレ第 2 号棟の建設を支援し、30 世帯(30 世帯 x7 名(1 世帯平均)=210 名)の住民が使用している。トイレの維持管理に関しては、それぞれの集落にトイレ管理委員会を設置し、使用規則や維持管理費の集金額について協議・決定し、運営されている。

トイレを使用している住民への聞き取りでは、屋外排泄による悪臭が減った、トイレができたので遠いところまで行って用を足す必要がなくなり助かった等のコメントがあり、トイレ周辺の屋外排泄は減少している。各集落においてトイレの管理・清掃は適切に行われているものの、毎月の使用料金を全世帯から徴収することに課題があるため、トイレ管理委員会は利用規約の見直しを行い、規約に違反した住民への罰金を課す等の対応を実施している。

- ・日時 2023 年 4 月～2024 年 3 月
- ・場所 リベリア共和国バポル州ウィズア村
- ・従事者人員 6 名
- ・受益対象者 ウィズア村スリップウェイ集落の 21 世帯 (21 世帯 x7 名(1 世帯の平均) =147 名)
ウィズア村のマンディンゴ集落 30 世帯(30 世帯 x7 名(1 世帯の平均)=210 名)
- ・支出額 500,000 円



第 1 号棟の公共トイレ管理委員のメンバーとの会議の様子



第 2 号棟の公共トイレ管理委員のメンバーとの会議の様子

カ ワリティ小中学校におけるトイレ 1 棟の修繕

・内容

当会はウィズア村にあるワリティ小中学校トイレ管理委員会から要望を受け、3 棟のうちの 1 棟（6 室）のトイレの修繕を実施し、2024 年 3 月に学校へ引き渡しを行った。過去に建設されたトイレは、近隣住民による使用を禁止したことでトイレの鍵や扉が壊され使用できなくなったため、過去の経験を踏まえ、今回修繕したトイレは近隣住民による使用も許可することにした。トイレが再び壊されることがないように、定期的に利用世帯が夜間に見守りを行うこととし、生徒や先生が日常的にトイレの清掃を行うなど、適切にトイレが使用され維持管理される仕組みについてもトイレ管理委員会と協議・合意した。2024 年度にも 2 棟目のトイレの修繕を予定している。

- ・日時 2023 年 4 月～2024 年 3 月
- ・場所 リベリア共和国バポル州ウィズア村
- ・従事者人員 6 名
- ・受益対象者 ワリティ小中学校に通っている生徒約 300 名(2023 年 7 月時点)、教師
今回修繕したトイレを共同で使用する 4 世帯・23 名
- ・支出額 1,174,000 円



修繕された小中学校のトイレ



トイレ引き渡しの様子

キ ウィズア村小中学生に対する環境教育研修の実施

・内容

ゴミのポイ捨てや環境問題に対する啓発活動として、2022 年度よりウィズア村にあるワリティ小中学校において、環境教育研修を実施している。リベリアに公的なゴミ収集サービスはなく、ごみのポイ捨てやゴミ処理の問題はウィズア村に限らず全国的な問題である。

2022 年度の研修結果を踏まえ、2023 度は 1 回あたり約 30 名の生徒に対してのべ 3 回環境教育研修

を実施し(11/24、11/28、12/1)、合計 102 名の生徒が参加した。継続的に本研修を実施していくため、ウィズア村の有志によって組成された衛生促進委員会(HPC)のメンバー5 名に対して環境教育研修の講師育成のためのトレーニングを実施し、うち委員長と共同委員長の2名が小中学校で実施した環境教育研修で講師を務めた。HPC メンバーが講師を経験したことで彼らの自信とやる気の向上につながり、継続的に環境教育研修を実施する土台が作られた。研修は昨年と同様座学と屋外活動の2部構成で、ゴミが人間や動物、環境に与える影響や地域をきれいに保つことの重要性を学び、実際にゴミ拾いとゴミの分別方法を体験してもらうことで生徒のゴミ処理に関する理解が深まった。研修の効果を測定するために事前テストと事後テストを実施し比較し、理解度の到達度合いを確認した。

- ・日時 2023 年 11 月 24 日、 28 日、12 月 1 日
- ・場所 リベリア共和国バボル州ウィズア村
- ・従事者人員 6 名
- ・受益対象者 ワリティ小中学生 102 名、衛生促進委員会のメンバー5 名、教師、約 110 名
- ・支出額 500,500 円



座学の講義の様子



生徒によるゴミ拾いの様子

ク 採掘組合支援活動

・内容

当会はウィズア採掘農業組合の運営能力強化を目的に、以下の活動に関して継続的な技術支援を実施した。

- ◆ 組合の年次報告書及び財務レポートの作成支援
- ◆ 組合の定期活動、定期会議開催の促進
- ◆ 基本的な記録作成方法の指導と記録確認、助言
- ◆ 組合が実施している活動のモニタリング、助言

また、組合の下部組織である採掘労働者グループによる養蜂活動開始にむけた準備を支援した。

- ・日時 2023 年 4 月~2024 年 3 月
- ・場所 リベリア共和国バボル州ウィズア村
- ・従事者人員 5 名
- ・受益対象者 ウィズア採掘農業組合員約 50 名及びその下部組織員約 70 名
- ・支出額 500,064 円



ウィズア採掘農業組合に対する報告書作成に関する指導の様子



採掘労働者グループとの会議の様子

③緊急支援事業

2023 年度は実施しなかった。

④その他の事業

2023 年度は実施しなかった。